

「自死・自殺に本気で向きあう」

シンポジウム開催報告

2月28日、シンポジウム「自死・自殺に本気で向きあう」を開催しました。作家の末井昭氏と雨宮処凛氏、Sottoの竹本了悟代表がパネリストとして登壇。理事の生越照幸氏のコーディネートのもと、「自死・自殺について表現すること」をテーマに議論しました。

会場アンケートには「重いテーマを笑いがあったり自由な雰囲気があって、笑いの大切さを改めて認識しました（60代以上・女性・医師）」「タブー視しない ざっくばらんな語り方がよかった（20～30代・女性・公務員）」「失礼だったりむちゃくちゃだったりして今まで考えたこともないような考え方に会えました。笑えて気持ちがすっきりしました（20～30代・女性・学生）」などの声がありました。

自死・自殺を本気で語り合いながらも、時折笑いがこぼれるような、なごやかなシンポジウムになりました。登壇者の経験を交えた率直な言葉のひとつひとつに、多くの気づきと優しさが詰まっていたように思います。

(発信委員長 加茂順成)



パネルディスカッションの様子。真剣ながらも、なごやかな雰囲気。

SottoLABO 開催報告

Sotto の理念を再確認



SottoLABO では、担当者が題材となる書籍の内容を発表し、その後参加者同士で自由に話し合う場を設けています。今回の題材は鈴木大介氏の著作『最貧困女子』（幻冬舎新書）。お互いに良い気づきが得られた場となりました。また、私個人にとっては、相談センターの理念である「心の居場所づくり」にじっくりと向き合うことが出来き、充実した時間となりました。

著書の中では取材の中で知ったリアルな現状が書かれており、本を読んだ私たち自身も胸が痛くなるような思いがしました。印象的だったのは著者の無力感です。鈴木さんは以下のように述べておられます。

「いったい自分は彼女らのために、なにをしてやれたというのだろう。執筆を終えてもう4年が経つというのに、猛烈な無力感は今も残っている」(p78)

この言葉から、私が Sotto 養成講座を受講した頃のことを思い出しました。「死にたい」「もう生きたくない」「消えてしまいたい」という言葉に対して何も言えなかった自分。自分の無力さを痛感して、とても辛かったことを思い出します。けれど、今ではその無力感が実は、「この人に何かをしてあげたい」「何かの助けになれば」という自分の気持ちでもあったのではないかと思います。確かに、それは自然な気持ちです。しかし、その自分の気持ちが死にたいほど苦しんでいる人との会話の中で妨げになる時もあるのではないかと思います。

Sotto の活動は、必要としていただく方のために、一度始めたら半永久的に続けていかなければいけません。出来ることと出来ないことを明確すること、その中で相手に対して出来る範囲で向き合っていくことは、相談されてくる方に対して誠実に向き合うことにもつながり、私たちが活動を続けていくためにも大切なことだと感じています。

(メール相談委員長 長島蓮慧)

第1回：3月18日(水) 参加者5名

第2回：4月15日(水) 参加者5名



被災地ノート ③①

東北の沿岸部では、かさ上げ工事が進む一方で、伸び放題になった雑草に隠れて、家の基礎部分だったコンクリートが点在して見える。かつて住宅が建ち並んでいたと思われるその場所は、震災から4年が経ってなお放置されたままであり、いまではそれも見慣れた風景になろうとしている。

そんな風景のなか、一人の男性が佇んでおられた。チューリップや水仙など、人の手が加わっているらしい花々の鮮やかな色も目に映った。男性が植えたものなのかと尋ねてみると、男性は首を横に振って、全国のボランティアが植えて行ったものだという。花々は、いまは玄関の門柱だけになってしまった男性の家の跡にも植えてあった。その花々を男性は、どんな思いで眺めていらしたのだろうか。たずねてみようとする、「ボランティアさんには、本当にお世話になったね」と言って、男性は私たちに頭を下げられた。私たちが何かをお世話をしたわけではないのにと、少し申し訳ない気持ちになった。

頭を上げられた男性は、今度は海辺の方向を指さして、この先に石碑があることを教えてくれた。その石碑には、津波で犠牲になったこの地域の方々の名前が彫り込まれているのだという。

「そこに弟の名前があるんだよ」男性はそう言って弟さんのことをお話してくれた。弟さんは、石碑の立つ近くで、津波に流されそうになった母子を助け出し、そして自身はそのまま流されてしまったという。

震災後、地域では英雄のようにして扱われたそうだ。「でも、自分まで流されちゃあね…」そうして、もう一度男性は「弟の名前を見て行ってほしい」と言われた。きっと以前より、男性にとって自慢の弟さんだったのだろう。

弟さんのお名前は、すぐに見つけることができた。黒く反射する石碑には、ほかにも、この地域で流された何十名という方のお名前が刻んであった。

どなたのお名前も、この場所で生きてこられた方のお名前なのだ。

あたりに広がる風景は、決して見慣れてはいけぬ風景なのだと思う。

(ボランティア2期生 A.C.)

今月のことば

ああ いきもののくにだ
わかりきっているのに ここは！

(まど・みちお『まど・みちお全詩集』理論者「いきもののくに」より一部抜粋)

活動報告

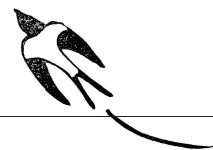
- 4月期電話相談件数…188件(無言33件、よりそいホットライン担当58件を含む)
- 電話相談委員会…グループ研修4月16日(木)17名
- 4月期メール相談件数…受信件数88件送信件数69件
- メール相談委員会…委員会会議/グループ研修4月22日(水)3名
- グリーフサポート委員会…Sotto語りあう会4月9日(木)8名(参加者0名)
- 広報発信委員会…委員会会議4月23日(木)5名
- 居場所づくり委員会…Sottoおでんの会”研究の場”4月1日(水)
委員会会議4月27日(月)4名



寄付ご協力一覧 (敬称略・順不同) 2015年4月1日～30日 受付分

ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派	光国寺和光仏教婦人会	佐藤雄作	長崎市・光源寺
株式会社エクザム	高木卓二	今井庸子	須坂市・東照寺
葛野洋明	鈴木八代子	衛藤徹三	高山幸博
ゼンキョウジ・トコロキヨノブ	高田妙子	山口俊雄	本山栄二
神崎裕子	尼崎市・専正寺	淡路市・宣勝寺(田近早弓)	大江真
洲本市・浄光寺(梅林雅道)	森田眞照	曜日慧誠	冬野正晃
福岡県築上郡・覚円寺(霍野廣紹)	和歌山市・万福寺	戸沢葉子	ひつじ株式会社
佐藤正広	大阪市・栄照寺	鹿児島市・明楽寺(高木壽章)	匿名希望9名
永江武雄	海野秀子	竹本宣子	高木愛郁
下関市・光明寺(泉哲郎)	藤岡大英	渡邊哲彦	長岡裕之
佐々木大悟	安本義正	加藤奉行	佐々木恵精
光国寺和光仏教婦人会	津市・妙華寺(中川和則)	菅野久美	
尼崎市・西要寺(堀祐真)	船倉成之	長崎市・光源寺	
上越市・真行寺(中戸康雄)	野村顕祥	大谷光真	



Sotto コメント

長かったゴールデンウィークが終わりましたね。新年度から環境が変わって、環境になじめず、しんどい思いをされている方も多いかもかもしれません。そんな時は、無理のないように、できるだけ自分の身体と心を大切にしてくださいね。(N.Y.)

発行 2015年5月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92
TEL 075-365-1600
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>
E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp